



写真 / 世界自然遺産・屋久島

自然環境を守るために徹底分析 保護林モニタリング調査が始まります

原生的な天然林や貴重な動植物の保護などで重要な役割を担い
先駆的な自然環境保全制度として機能している保護林制度。
国有林事業では、今後、さらに適切な保全や管理を行うために
「保護林モニタリング調査」を実施します。

保護林の種類と設定状況
平成 19 年 4 月 1 日現在

種類	目的など	箇所数	代表地
森林生態系保護地域	原生的な天然林を保存し、自然環境の維持や動植物の保護を行う	28	知床・白神山地・屋久島
森林生物遺伝資源保存林	森林と一体となって自然生態系を構成する生物の遺伝資源を保存する	12	八甲田山・九州中央山地
林木遺伝資源保存林	林木遺伝資源を森林生態系内に保存し、将来の利用可能性に資する	324	男鹿ケヤキ・愛鷹山ブナ
植物群落保護林	植物群落などの保護・維持を図り、併せて森林施業などの発展に資する	363	レブンアツモリソウ群生地・長九郎シャクナゲ群落
特定動物生息地保護林	特定の動物の繁殖地、生息地等の保護を図り、併せて学術研究などに資する	36	シマフクロウ・御岳（ツシマヤマネコ）
特定地理等保護林	特異な地形、地質等の保護を図り、併せて学術研究などに資する	35	槍ヶ岳・穂高・黒部渓谷
郷土の森	地域における象徴としての森林を保護し、併せて地域の振興に資する	35	菅平湿原・いわむら

豊かな森林を守るための
保護林制度

国有林事業では、先駆的な自然環境保全制度として、大正四年に「保護林制度」を発足させました。保護林とは、特に重要とされる国有林野

のことで、原生的な森林生態系からなる自然環境の維持や野生動植物の保護、遺伝子資源の保存などを目的に、適切な保全・管理に努めています。平成一八年には、貴重な天然林などを八箇所を新たに保護林に設定し、この結果、保護林全八三三箇所、合

計七十七万八千ヘクタールとなりました。世界遺産に指定されている知床をはじめ、豊かな自然環境を守るべく、今後も保護林の維持や拡充を進めていきます。

さらに適切な保全に向けて
「モニタリング調査」が始動

近年、国民の皆様から生物多様性の保全に対する要請が高まっています。保護林に

いても、現況に応じた管理や機能回復に向けた、新たな対策が求められているところですが、しかし、立木や土壌については把握できていても、植生や生態系に関する情報は必ずしも統一的に把握できていないのが現状です。

そこで国有林事業では、今年度より全国的な保護林のモニタリング調



実際に山に入り、調査を実施

査を実施、調査結果を蓄積して、適切な保全・管理に活用したいと考えています。六月に行われた「マニユアル検討ワーキンググループ」における検討結果をもとに、この八月より各森林管理局において、保護林モニタリング調査を行います。五年間で全保護林を一巡する予定です。今後も保護林の保全・管理に向けて、ますます力を入れていきたいと思えます。